令和元年度北方四島交流第２回一般訪問事業参加報告

広島県地域女性団体連絡協議会会長
佐 藤　浩 子

今回のビザなし交流は、お盆を含む 8 月 15 日(木)から 8 月 19 日(月)の日程で団員 64 名の訪問団であり、広島県は県女連から 3 名の参加となった。

折しも台風 10 号の上陸が広島県直撃と予報され初日から大きくスケジュールの変更を余儀なくされた。

結団式の前日には千歳市まで入り翌 8 月 14 日(水)根室市の北海道立北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)での結団式と事前研修に参加した。

ニ・ホ・ロは日本、北海道、ロシアの頭文字をつなげた美しい命名で本当に名前のとおり自由に交流出来る日が来るようにと願った。

団長挨拶では大野黒部市長が「黒部市は元島民が多い。6 回の訪問で感じたことは、以前は交流の中で返還の話が自由にできた。交流では自ら進んで返還の話はしない事とするが、島民が聞いてきた場合は島は日本の領土と言ってください。しかし能動的には言わないでください。日本の文化を披露してください。大切なことは、みんなで力を負わせて元気に活動してください。」と話された。

3 年前の訪問では、返還の話はしないで、交流に徹してくださいという指示だったので、黒部市長の挨拶に驚き、注意深く慎重な言葉選びが必要と感じた。

その後北方四島交流について、政府同行者から説明と注意があり，参加者が実施しなくてはならない事として、今回見分した事を多くの人に伝える「伝道師」になってほしいとの指示があった。

オリエンテーションは終了、続いて「最近の日露関係と北方領土問題」と題して山田東海大学海洋学部教授より講演があった。ユーラシア大陸から見た日本を示す逆さ地図から日本の位置の重要さと北方領土の関係を学んだ。

住民交流会での役割分担で協力依頼があり、広島の 3 人は挙手をして積極的に参加することとした。役割はスポーツ交流の一つ、魚釣りゲーム「釣りっこ」を 3 人で受け持つこととなった。

結団式・事前研修会は午後 7 時過ぎに終了となった。

８月１５日(木)　天気：曇り・雨

根室港で出発式の後 9 時 15 分に根室港（琴平町岸壁）を出港した。岸壁には見送りの方たちが多く「いってらっしゃーい」「いってきまーす」と言葉が飛び交い、「行ってらっしゃい、私たちの四島へ」と書いた横断幕が訪問団を見送ってくれた。3 年前国後島、択捉島を訪問して今回再び訪問できる事を思うと身の引き締まる思いであった。出航してしばらく見送りデッキで景色を見ていたところ、イルカが飛び跳ねているのが見えた。よく見ると船の近くにも数頭泳いでいて、歓迎されているようで嬉しかった。獲物の魚がたくさんいる豊かな海域な

のだと思った。
えとぴりかの船内で安全説明とロシア語講座があり 12 時 30 分に国後島古釜布湾に到着した。船上から見た国後島は、3 年前に訪れた風景とほとんど変わっておらずカラフルな建物が異国を感じさせた。13 時から入域手続きを経て 15 時に国後島に上陸した。岸壁は整備されておらず艀に乗り移っての上陸であった。気温は 20 度を切っていただろうか広島の秋頃の気温で肌寒く感じた。
送迎の車は大半が日本の中古車であった。道路が整備されていないのが車の汚れで推測された。島の中に入ると、舗装道路は中心部だけの様だった。
港には異常と言っていいほどのカモメがいて、整備されていない排水処理のため海に捨てられる魚のはらわた等を食べるために集まっているようだった。島には野良犬、野良猫が多く住宅街にも普通に野良犬がうろうろしているので子どもたちの安全は大丈夫なのかと心配であった。
16 時国後島文化会館に到着。真新しい施設のため靴の上にカバーを履いて入館した。他の施設においても靴カバーを履くことが多かった。
文化会館ホールにおいて「国後島代表者面会」が行われた。若く美しい地区長代行のアンドレーエヴァ氏による国後島の現状が紹介された。人口は約 11700 人で平均給与は 7 万ルーブル、年金者の平均は 24800 ルーブル、学校は 12 校、学生は 1090 人、スポーツ施設は 20 か所、1992 年 4 月から始まったビザなし交流は 26 年で 24500 人と交流できた。またロシア人は 10500 人日本に行って交流することが出来た。日本で診療を受けた人は 280 名強いること等紹介された。
記念品の交換では、日本からガラス工芸の花瓶、ロシアからはロシア人形であった。非常に和やかで友好的な雰囲気で代表者面会は終了した。その後台風の影響とみられる雨の中を「友好の家」に着いた。文化会館でも友好の家でも前回訪問した時行われた、美しい民族衣装を着た娘さんたちによる「パンと塩」をふるまう歓迎セレモニーは受けなかった。ロシアの伝統である旅人を優しく迎える、美しい儀式はもう行われなくなったのだろうか。
17 時 40 分から「友好の家」で夕食後北方領土語り部の本田幹子さんの講演があった。元島民の二世である彼女のとつとつとした話しぶりの中に四島返還の思いを受け取った。この四島返還は竹島、尖閣諸島等の領土問題の防波堤であるからしっかりと対処しなければ北海道でも危ういと話されたことに驚いた。しかしながら、昨今の国際情勢を見ると不安に思うところである。長年にわたるビザなし交流は重要な防波堤の一つであると思った。
台風の影響もあり国後島の友好の家に 3 泊することになった。前回はえとぴりかの船内泊だったので新しい体験となった。友好の家は簡素ではあるが清潔で、トイレは水洗、風呂はなくシャワーだけで使用後はすぐに掃除をして下さっているようだった。

８月１６日（金）　天気：雨　国後島１日目

7 時 20 分強い風と雨の中をトラックバスに乗りスポーツ健康施設「アファリナ」の視察から始まった。ロシアでは一週間の労働時間は女性 36 時間・男性 40

時間、年間有給休暇は 52 日と余暇が多い。また島内には娯楽施設もない現状と非常に低い男性の平均寿命 66.5 歳（ロシア人男性の 25%が 55 歳未満で死亡というデータもある）を考えるとスポーツ施設の果たす効果は大きいと思われた。雨で平日でもあり利用客はいなかった。

続いて 8 時過ぎから近くにあるロシア正教会「聖三位一体教会」の視察。ロシアと日本を結ぶニコライ神父について語られた。

続いて近くにあるこども園「ソルヌィシコ」視察。昨年新設された施設で、驚いたことに室内プールが設備されていた。保育料は 3420 ルーブル、二人目からは 15%引き、3 人目は無料で民間のこども園は無い。夏休みは 5 月 30 日から 8 月 30 日まで、働くお母さんの為に夏休み中でも保育は実施されていた。島内に 4 つのこども園がある。

続いて古釜布墓地の墓参のためトラックバスで日本人墓地に着いたが、台風によるひどい雨と風で車内から手を合わせた。お盆に墓前に線香を供え供養できなかったことが残念であった。

12 時には「友好の家」で昼食を済ませて前日行った文化会館で住民交流会に臨んだ。はじめホールで富山県の紹介映像上映の後富山県の民族芸能「獅子舞」が披露された。昔から継承している神事である獅子舞の精神性まで理解してもらえたか少し疑問に思えたが、日本の文化の紹介として地元の方々におおいに楽しんで頂いたようであった。

その後場所を小ホールと体育館に移動して、体験交流会を実施した。万華鏡づくり体験、スポーツ交流とそれぞれ事前準備されていた用具を使って、地元の方たちと楽しい時を過ごした。広島県の 3 人は魚釣りゲームで大活躍であった。

その後 16 時過ぎから商店視察。商店街はまだ無くプレハブの店が 3 軒程あっておおかたの日用品は揃っているようだった。3 年前には野菜等の生鮮食料品が不足していると地元の人たちは話してくれたが、今回は量的には少ないが新鮮な野菜が売られていた。お酒はたくさん取り揃えてあった（男性の平均寿命の短さはお酒の飲みすぎというデータもある。）。私は 2000 ルーブル(日本円で約 4000 円)両替していたのでお土産のチョコレートを買った。小さな店の中にすし詰め状態で私たちが並ぶ中に、地元の買い物客がおられたので「お先どうぞ」と身振りで促したが笑顔で「よろしいですよ」と態度で表現されたので、なんだかホットした優しい空気が流れた。

17 時「友好の家」に帰り夕食となった。夕食では岩手県女性会会長さん、京都府女性会会長さんと広島県女性会の 5 人で商店で買ってきたビールで乾杯をして大いにお喋りし情報交換をして親交を深めた。

８月１７日(土)　天気：雨　国後島２日目

朝食を済ませて 8 時 15 分、郷土博物館の視察。国後島は 123 キロ、幅は狭いところで 11 キロで針葉樹の島で黒い島と呼ばれる。冬は雪が多く火山は 4 つある等島の概要説明のあと展示説明に移行した。中でも島の歴史展示のところでは複雑な気持ちになった。日本人が生活していた日本の領土に、無理やり侵入し

一つ屋根の下で生活した事そして日本人を排除していった経緯を戦争で勝ち取ったとして、何の疑問も無さそうに移民という言葉で説明された。戦後 74 年という長い月日が、既成事実として動かぬ現実を作り上げていた。この島で生まれた子どもたちも多くこの島が故郷として育っていくことを思う時、返還活動は増々困難になると思った。

続いて 9 時 15 分から中央図書館視察。子供たちは日本の事を知りたがっており、日本に関する本を購入するようにしている。今後ビザなし交流で漫画の本を持ってきて欲しい等話された。収蔵書籍の中に「広島市立本川小学校 140 周年記念誌」があった。館内で「ロクニクラブ」と言う日本語勉強会が行われていた。クラブの名前はロシア・国後・日本のかしら文字をつなげた命名であった。お会いした地元の人たちは一様に親日家でフレンドリーであった。

1 時間で図書館を後にして友好の家に帰り昼食。

昼食後 11 時から楽しみにしていたホームビジットに行く。広島県の 3 人は一緒の家庭を訪問するよう割り当てられた。家族構成は、お母さんアンナ 37 歳、会社員、お父さんアンドレイ 40 歳、運転手、娘アンナ 16 歳は生徒、息子ドミートリ 7 歳で 1 年生、甥アルチョム 10 歳で生徒、姪アリーサイ 7 歳で 1 年生という賑やかな子どもたちの歓迎を受けた。ドアを開けると子どもたちが「こんにちは」と言ってハグしてきた。子どもたちの可愛さがたまらなかった。私の娘家族とよく似た家族構成だったので、孫たちの様でいとおしかった。まず持ってきたプレゼントを渡した。スーツケースの半分に地元銘菓や味つけのり、子どもの好きそうなお菓子、千代紙、手拭、マヨネーズ等を持参同行した広島の 2 人も同じようにたくさんのお土産を持参していたので子どもたちは、大喜びだった。訪問団からお茶のお土産と同郷のインフルエンサー三山さんからの宮島杓子を手渡した。お土産の謂れ等説明できないのが残念だった。

食卓には、娘さんの手作りケーキをはじめ心のこもったご馳走がたくさん準備してあり、勧め上手な奥さんに勧められ沢山いただいた。

少したった頃、通訳さんとロシア国営テレビのカメラマンと地元新聞記者が来られて取材を受けた。インタビューは代表でと指示されたので、私が受けることとなった。記者が「ビザなし交流はどうですか」と聞かれ、午前中に視察した博物館で感じたことを話した。「博物館のブースの中で、昔国後島で暮らしていた日本人の様子と収集された品々を見て複雑な気持ちになりました」と話すと記者は当時の事を多く語り始めた。「一緒に暮していた頃は仲良く暮らしていた。日本人が魚の取り方、加工の仕方を教えてくれた。日本人の娘さんは美しい、ロシアの兵隊が恋をしたが日本人はアメリカの指示で帰っていった。戦後日本で暮らした人が、島に戻りたいという人がいた、そのような願いをロシアがキャッチした。戻りたい人を戻そうと言う話しになったが、そのままになって現在に至っている。」と話された。日本人はアメリカの指示で日本に帰ったと話されたことは事実なのだろうか、疑問に思ったが聞く事は出来なかった。なぜそのような時期に積極的に返還交渉ができなかったのか残念に思えた。今日の取材がテレビではどのように放映されたのだろうか、心に残る貴重な体験となった。

その後カメラマン、記者は退席され通訳さんを交えて交流となった。美しい娘さんは卒業するとノボシビルスクの大学医学部に進学希望でピアノが上手だった。小さなレッスン室がありクラビノーバを弾いてくれた。剽軽ものの息子ドミートリは、ぶら下がり健康機で逆さぶら下がりを披露してくれた。リボンのよく似合う愛らしい姪っ子アリーサは、絵画教室のようにセッティングしてある部屋でお絵描きの先生になって私たちにフラミンゴの書き方を教えてくれた。甥っ子のアルチョムはレスリングが好きで、体育館に通っている、学校では化学と数学が好きと話してくれた。どの子も積極的で物怖じしない様子に両親も誇らしげであった。教育熱心で、家庭円満の様子がよく分かった。家の中は充分の部屋数があり綺麗に整えられており生活は豊かに思えた。通訳さんの話では中流の上くらいの家庭の様であった。

私は日本文化の紹介として孫の空手の全国大会の様子と自分の庭のオープンガーデンの様子をタブレットで紹介した。この後通訳さんが帰られたので、日本の歌「北国の春」「さくら」を披露した。娘のアンナが家の裏に植えてある桜の写真を見せて「桜は大好きです」と言ってくれた。そのあとメールで交流しようとアドレスの交換をした。娘さんが携帯の翻訳機能で「帰る時間です」と言ってくれ、あっという間に 14 時になりアンナさんの家を後にした。

一歩家を出ると家はコンテナをつないで改装された家であることが分かった。家の前の道路は整備されておらず、工事現場のような道を車で送ってもらった。主人の話では順次道路整備を計画されているとのことであった。「友好の家」の前でハグをして別れを惜しんだ。

夜は夕食交流会ですっかり打ち解けた人たちとおおいに語り合った。交流会に参加されていたので、ホームビジットの取材記者はキセリョフ編集長であったことが分かった。後日彼が記事にされたのであろうかサハリン・インフォというネット新聞の記事を通訳さんがリンクを送ってくださった。

８月１８日(日)　天気：曇り・雨　色丹島

今日は初めて訪れる色丹島なので、島の様子はどうなのかと思いながら朝食を済ませて古釜布の港へ移動した。艀に乗り移った時ちょうど魚の残渣が海に排泄されたので、その匂いに吐きそうになった。帰船して色丹島へ向けて出港し、15 時頃色丹島(穴潤)に到着した。岸壁はきれいに整備されていて船は岸壁に横付けできた。港には新しそうな大きな魚加工場があってきれいに整備されていたが、工場内を視察することはできなかった。

すぐ斜古丹墓地に向けて乗用車に分乗して出発した。道はすぐ未舗装になりひどい凸凹道となった。晴れの日であれば、車列を組んでの移動はどれほど埃がするのだろうかと思った。途中道路脇の山に野積みにされたゴミから自然発火して煙が出ているのを見た。これからゴミ処理施設を計画されるのか、帰りの船にゴミ処理の視察に日本を訪れるロシア人がいたようであった。凸凹道を通って島の岬近くにある斜古丹墓地に着き、雨の中ではあったがお墓に線香を手向けて手を合わせることが出来てほっとした。墓地の近くにフジバカマが咲いて

いた。墓地は地元の人たちできれいに草刈りをしてあり、日本人を大切に思っているロシアの人たちがいてくださることが嬉しかった。せめて、お盆やお彼岸には自由に墓参できるようになればと願う。

車の運転手さんにお天気の良い日に撮った色丹の美しい風景を携帯で見せてもらった。海と山が織りなす景色はとても美しく感動的で、今度は観光で来ることが出来るようになることを願った。色丹島をはじめ四島は自然が美しく観光事業で交流することは可能と思えた。貴重な高山植物を見ることはできなかったが、道端にはオルレア、コスモス、ハマナス等咲いておりナナカマドはすでに赤い実をつけて秋の風情だった。

商店視察の時、近くの丘の上に新しく美しい病院が出来ているのを見て、医療施設も整って安心して島での生活が確保されつつあると思った。後日日本のテレビでこの病院の事が放映されていて、島の人たちの喜ぶ様子が紹介されていた。

17 時アナマ港より乗船して国後島に向けて出港し、21 時頃国後島沖に着いて船内泊となった。

８月１９日（月）　天気：晴れ

4 時起床、5 時朝食、7 時から出域手続きを受けて 8 時 30 分根室へ向けて出港し船内において解団式が行われた。

団長からは、「今大切な事はビザなし交流を絶やしてはいけない、島で見てきたことをありのまま報告してほしい」と挨拶があった。国会議員の皆さんから「国後島では領土問題について、ロシア政府の力によって優遇施策を実施しロシア化に努力している。日本政府が返還するためには、ロシアが投入した資金より上回る資金を投入しなければならない」「長期的な計画で返還運動を進めて行かなくてはならない」又副団長から「よりロシア化がされている現状を見て、返還は難しいのではないかという様に地元に帰ってから話してほしくない」等まとめの挨拶があった。

3 年前と比べて道路、下水道等のインフラ整備は進化していないが、魚加工工場、公園、幼稚園、スポーツ施設、病院、アパート等新しい施設が整備されていた。日ロの経済協力はどの分野で有効なのだろうか。島で生まれ育っていく二世、三世たちが多くなる現実とビザなし交流をどのような形で進めていくのか、ロシアの人たちと心を通わす交流の大切さを思った。

今回のビザなし交流を通じて多くの事を学び体験させて頂いたことに感謝し、参加者の使命である「伝道師」の役を頑張っていきたいと考えています。ありがとうございました。（スパシーバ）

ホームビジット

体験交流会